

(中間評価)

バッファリングによる女性研究者養成の加速

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：熊本大学（総括責任者：谷口 功）

プロジェクトの概要

(1) 新規養成女性研究者の採用計画： 大学院自然科学研究科において平成 22 年度からの 5 年間は全学措置席(女性研究者用バッファ席)の配置により 13 名の女性研究者を年次計画に従って採用する。これに続く平成 27 年度からの 5 年間は新設の熊本大学女性研究者養成支援制度のもと 10 名の女性研究者を採用する。

(2) 女性研究者養成のための取組内容： 女性研究者養成の基本としては、研究費の支援と研究スペースの割当が挙げられる。その他、メンター教員の指導による活発な研究活動の展開、出産・育児期間での研究支援員の配置、女性研究者による研究成果発表のためのシンポジウムの開催や博士前期および後期課程に在籍する女性大学院生に対する啓発活動を推進する。

(3) 期待される効果： 女性研究者の計画的採用を可能とする本取組、および、平成 23 年度に導入する新たな人事制度のもと、より柔軟で計画的な組織編成を可能とし教育・研究の活性化がはかられる。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	取組の内容	システム改革	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

全学措置席（バッファ席）を活用する独自の女性教員採用システムを構築しており、自然科学研究科において教員の女性限定公募を実施し、3 年目までの新規養成女性研究者採用目標を達成している。当該採用システムは部局単独では困難な女性教員の採用を全学レベルで可能とすることから、他機関への波及効果も高い。さらに、優秀な女性研究者の採用を進めるため公募方法を工夫するとともに、選考審査の透明性、妥当性を確保しており、

ロールモデルとなる女性教授が全学的に増加するなど自然科学研究科以外の部局への展開も見られ評価できる。実施期間終了後の取組も具体的に計画されており、今後は、理学・工学系分野の上位職階女性教員の更なる増加を期待する。

・**進捗状況**：新規養成女性研究者の採用は教員の女性限定公募により3年目までの目標を達成している。また、女性研究者比率は実施期間終了時の目標を既に達成しており、所期の計画は順調に進捗している。さらに、新規養成女性研究者8名のうち4名が准教授である点も評価できる。

・**取組の内容**：新規養成女性研究者の採用において、バッファ席を活用する独自の採用システムを導入し、職位を限定しない公募、女性研究者を含む審査員等の工夫を加えており評価できる。新規養成女性研究者に対する、研究環境整備等による手厚いサポート体制も評価できる。

・**システム改革**：バッファ席を活用した自然科学系女性研究者の採用と養成を加速する独自のシステムが効率的に運用されている。理学・工学系分野のみならず全学的に上位職の女性研究者が増加しており、自然科学研究科における環境整備、意識改革の成果が全学へ波及しており評価できる。

・**実施体制**：学長の強いリーダーシップの下、人事担当理事を長とした男女共同参画推進委員会が取組を担う実施体制を構築しており評価できる。

・**今後の進め方**：実施期間終了後も5年間、女性研究者2名分のバッファ席を確保し採用を継続する計画であり取組の継続性が評価できる。今後は、理学・工学系分野の女性教授の更なる増加を期待する。